

血液培養および尿培養から *Corynebacterium resistens* が検出された 1 例

◎蛭原 楓¹⁾、渡 智久¹⁾、関口 真央¹⁾、小俣 北斗¹⁾、渡辺 直樹¹⁾、大塚 喜人¹⁾
医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院¹⁾

(はじめに) *Corynebacterium* 属菌は、ヒトの皮膚に常在するグラム陽性桿菌であり、易感染性宿主にデバイス感染、創部感染、呼吸器感染、菌血症を引き起こすと考えられている。その反面、血液培養では陽転時間が 72 時間を超えるとコンタミネーションの可能性が高まるとの報告もあり、起炎性の判断が重要となる。今回我々は、カテーテル尿と血液培養から *C. resistens* が検出された症例を経験したので報告する。

(症例) 60 代、男性。基礎疾患に 2 型糖尿病・高血圧を有していた。2020 年 9 月に貧血、呼吸困難および黄疸が出現したため当院救命救急外来を受診し、精査加療目的に即日入院となった。その後、急性骨髄性白血病と診断され根治的同種移植を施行、加療していた。2021 年 3 月 20 日に 38°C 台の発熱を認めた。発熱時検査データは白血球数が $1.0 \times 10^3/\mu\text{L}$ 、CRP が 5.65 mg/dL であり、カテーテル尿および血液培養 2 セットが施行された。

(細菌学的検査) 発熱時に採取されたカテーテル尿のグラム染色鏡検では Coryne 型のグラム陽性桿菌が観察されたが、

好中球などの炎症性細胞浸潤を示唆する所見は認めなかった。分離培養ではグラム陽性桿菌が $10^6/\mu\text{L}$ の発育を認めた。血液培養は、1 セットが 60 時間で陽転し、同様のグラム陽性桿菌が観察された。5% ヒツジ血液寒天培地にサブカルチャー後、好気培養 24 時間で微小なコロニーが発育し、48 時間で真珠様光沢のある灰白色のコロニーが形成された。同定検査は MALDI Biotyper (ブルカー・ジャパン株式会社) で解析したところ *C. resistens* と同定された。API CORYNE (ビュオメリュー・ジャパン株式会社) を実施した際のバイオコードは 0100004 であった。

(考察) *Corynebacterium* 属菌が血液培養から検出された場合は、他材料からの検出菌、陽転時間および患者状況などをもとに、起炎性については臨床医とともに慎重に判断する必要があると考える。本症例では、*C. resistens* に対する積極的な治療を行う前に患者が永眠されたために真の感染起炎菌であるかは明らかにならなかった。

(連絡先: 亀田総合病院 04-7099-2323)